

平成22年2月1日

小さなお子さんをお持ちの方で、薬をなかなか飲まない子に苦労したことはないでしょうか？薬をきちんと飲むことは、早く元気になるための近道です。今回は、「小児への薬の飲ませ方」についてお話ししたいと思います。

●なぜ薬が嫌いなの？

「苦い」「においがある」「舌触りが悪い」「量が多い」などの理由から薬を嫌う子供が多いようです。子供の好みや成長に応じた工夫が重要になってきます。

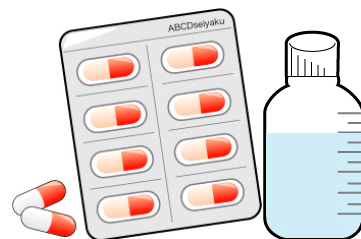
「なぜ薬を飲まなくてはならないの？」という疑問から薬を飲まなくなることもあるので、言い聞かせてわかる年齢の子供には、薬を飲む理由をわかるように説明してあげることも大切です。

薬は「病気を治すために必要なもの」として、子どもが「つらいもの」という印象を持たないように、楽しい雰囲気でも飲ませましょう。「治そうね」「元気になろうね」などと声をかけることも効果的です。

服用できたら十分に誉め、自信を持たせましょう。

●薬の飲み方

処方された薬は服用方法を守るのが基本ですが、子どもでは服薬時間に寝ていたり、機嫌が悪かったりすることもあります。その場合はある程度の時間を空けて飲めそうなときに飲ませましょう。



〔シロップ〕

服用しやすいよう甘味・香料が加えてあります。

服用前に薬瓶を振り1回分を正しく計ります。服用後は冷蔵庫保存します。

〔ドライシロップ〕

薬に白糖や香料・分散剤などを添加して顆粒状にしたものです。

胃内の酸性環境で溶けるようにコーティングされたものは、スポーツ飲料や酸性のジュースと混ぜると苦くなります。

〔散剤〕

1回分の薬を1口分の水に溶かし、スプーンで口の奥に流し込みましょう。

また、水で練って団子状にして清潔な指で頬の内側や上あごに塗り、水やぬるま湯を与えるという方法もあります。

いずれのタイプの薬でも、服用直後には湯冷ましやお茶を飲ませ、口内に薬が残らない状態にしましょう。

☆飲み忘れた！

★気づいたときに飲ませるか、次の服用時間が近ければ1回とばしましょう。

2回分を一度に飲まないようにしましょう。

☆飲んですぐに吐いてしまった…

★休憩してからもう一度同じ量の薬を飲ませましょう。

服薬後30分以上たってから吐いたときは再投与しないようにしましょう。



☆飲食物との混合

シロップ・練乳・水飴などに混ぜて服薬させます。特にチョコレート・ココア味のものと混ぜると薬の味がわかりにくくなります。また、氷やアイスクリームは、舌を冷やし一時的に味を感じにくくします。

0歳ではボツリヌス症のおそれがあるため、蜂蜜での服用は避けましょう。

☆どうしても飲んでくれない…

★オブラート、服薬補助ゼリーを使ってみましょう

●年齢に応じた注意

〔0歳〕

満腹だと飲まなかったり嘔吐したりするため、特に指示がない場合には、**ミルクの前に服薬させましょう。**

ミルクに混ぜる方法は、ミルク嫌いになることがあり、また薬効に影響することもあるので控えましょう。



〔1～5歳〕

味覚や好き嫌い、本人の意志が出てくるため、服用が難しくなってきます。なるべく他のものに混ぜず、水やぬるま湯で飲む習慣をつけましょう。

〔6～12歳〕

本人が薬物療法を理解し、錠剤やカプセル剤の服用もできるようになってきます。飲み忘れや用量間違い・ごまかし・誤飲などが無いよう、正確に服用できているか確認することが大切です。

〈参考〉

- ・臨床と研究 2009. 4
- ・調剤と情報 2005. 8

